

□ 計画策定の背景【資料1】

- ・自転車活用推進法
- ・沼津市のこれまでの取組
- ・自転車のメリット
- ・計画の内容（項目）
- ・計画策定スケジュール

◎ 本日の内容

□ 沼津市の自転車を取り巻く 現状と課題【資料2】

- ・現状、特性
- ・アンケート結果抜粋（速報値）
- ・課題のまとめ

□ 計画の骨子案【資料3】



- ▶ 国の推進計画の構成を参考とし、地方版推進計画の構成を検討する。

※自転車活用推進法には、地方版推進計画の構成は示されていない

- ▶ 下記に計画の標準的な構成（例）を示すが、地域の実情を反映し、必ずしもこの構成にとらわれる必要はない。
- ▶ なお、計画の記載内容については、各策定主体の判断により決定するものであり、基本的な方針のみを示す基本計画と、詳細な施策まで示す実施計画を分割し、策定することも考えられる。

【地方版推進計画の構成（例）】

- (1) 計画の目的・区域・期間、計画の位置付け
- (2) 現状及び課題、計画の目標
- (3) 実施すべき施策、実施スケジュール
- (4) 計画の推進体制、計画のフォローアップ及び見直し方法



出典：国土数値情報

計画区域 ⇒沼津市全域

なお、本計画に基づく施策展開においては、地域の生活圏や広域観光圏などを踏まえ、富士山方面、箱根方面、伊豆方面と連携して取り組めます。

■計画の位置付け(案)

- 本計画は、国および県の自転車活用推進計画を踏まえ、自転車活用推進法第10条に基づく市町村版自転車活用推進計画とする
- 沼津市の上位・関連計画と連携し、本市における自転車の活用を総合的・計画的に推進するための自転車施策に関する最上位計画

上位計画

- 第5次沼津市総合計画(策定中)
- 沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(改定中)

●【上位計画】第5次沼津市総合計画(策定中)

- 多様な交通モードにより接続されたコンパクトなまち
- 歩行者や自転車利用者の安全に配慮した道路の整備・管理
- 自転車など、環境に優しい交通手段の利用促進



・第2次沼津市都市計画マスタープラン(H29.3)

- 都市機能や公共交通を充実し、歩いて、自転車でも、公共交通でも移動できるまちづくり
- 歩行者や自転車が安全で快適に通行できる空間の創出
- 自転車利用を促進する通行帯や駐輪場の整備

整合・連携

【国】自転車活用推進計画(H30.6)

↓ 整合

【県】自転車活用推進計画(H31.3)

↓ 整合・連携

連携

沼津市自転車活用推進計画

沼津市自転車ネットワーク計画(H29.11)

連携

まちづくり

沼津市立地適正化計画(H31.3)

沼津市中心市街地まちづくり計画(H27.8)

沼津市中心市街地まちづくり戦略(R2.3)

公共交通

沼津市地域公共交通網形成計画(R2.3)

交通安全

第10次沼津市交通安全計画(H28.3)

健康

沼津市健康増進計画(改定中)

スポーツ

沼津市スポーツ推進基本計画(H26.3)

観光

沼津市観光振興ビジョン(改定中)

環境

沼津市環境基本計画(H28.3)

沼津市地球温暖化対策実行計画(H24.3)



<第5次沼津市総合計画における将来都市像>

上位計画で
市が目指す
将来都市像

人・まち・自然が調和し、躍動するまち
～誇り高い沼津を目指して～

<将来都市像の実現に向けて自転車が担うキーワード>

● 人・まち・自然が
調和するまち

元気でいきいきと行動するまち

徒歩やスローモビリティで回遊・楽しめるまち

● 躍動するまち

若者から高齢者まで、便利で快適なまち

本市ならではの魅力を活かした人が集い楽しむまち

寄与

誰の
ために

<ターゲット>

① 学生

⇒市内には13校の高校があり、自転車を利用して通学している高校生が多い。高校生等の学生の主たる移動手段は、自転車となっており、事故も多いことから、安全で安心して利用できる環境が必要。

<ターゲット>

③ 観光客・サイクリスト

⇒地域資源を活用したコンテンツの磨き上げやおもてなしの環境づくりとともに、それらをサイクリスト等に届ける情報発信が必要。

<ターゲット>

② 近距離ドライバー

⇒特に30代～50代では、自動車での通勤者の割合が高い。また、自動車分担率は業務、私用、通勤で特に高い傾向にある。従業者密度は、沼津駅の3km圏内で集中しており、商業施設・公共施設等も平坦な市街地にある。健康でいきいきと暮らすためにも、日頃からの運動不足解消への取組が必要。このことにより、過度に自動車に依存しないまちづくりが推進される。

本計画の基本方針

「行きたいまち、住みたいまち。」
～自転車利用環境の向上により、選ばれるまちへ～



ターゲット

学 近 サ

○ ○ ○

○

○

○ ○ ○

目標1

利便性・安全性
の確保

- ①自転車ネットワーク整備計画に沿った自転車通行空間整備の実施
- ②自転車の安全利用の促進(交通安全教室、啓発、ヘルメット着用、保険加入、歩行者・自転車・ドライバとの共存等)
 - ・その他施策イメージ
 - ⇒通学路安全マップの作成(茨城県 神栖市)
 - ⇒キックバイクを用いた子ども自転車教室の実施(京都府 京都市)

目標2

自動車への
依存を低減

- ①サイクル&バスライドなど、自転車と公共交通の連携の強化
- ②自転車の利便性と都市環境の向上を図るため、駐輪場の適切な管理
 - ・その他施策イメージ
 - ⇒雨の日臨時便への取組(横浜市営バス、レイニーバス(遠州鉄道 浜松市))
 - ⇒週末限定 歩行者・自転車のためのオープンストリート(シクロビア・ボゴタ コロンビア)

目標3

交流人口の
拡大

- ①市内や広域連携による回遊に向けた魅力的なサイクリング利用環境の創出(市内、太平洋岸自転車道)
- ②サイクルツーリズムによる地域振興の仕組みづくりと、その情報発信
 - ・その他施策イメージ
 - ⇒新技術(e-bike)を活用した体験会・イベント・ツアー(愛媛県 しまなみ海道)
 - ⇒サイクリング拠点の整備推進(ONOMICHI U2 広島県 尾道市)

目標4

健康の増進

- ①市民の日常生活における自転車の利用促進(通勤、通学、買い物等)
- ②自転車を活用した健康づくりに関わる広報啓発
 - ・その他施策イメージ
 - ⇒継続的な運動実施支援による医療費の削減(新潟県 見附市)
 - ⇒サイクルクラブの創設と健康づくりの推進(茨城県 石岡市)

学…高校生、高専生、大学生、近…近距離ドライバー、サ…サイクリスト等



現状と課題

- ・沼津市の自転車通行空間は、計画に基づき、継続的な整備が必要。自転車が安全に走行しやすい空間が必要である
- ・沼津市の自転車事故は周辺自治体より多く、ターゲットを明確にした上で交通事故削減に向けたマナーや交通ルール等の安全教育・普及啓発が必要である
- ・沼津市には様々な地域資源が点在、活用に向けた交通手段の選択や魅力的なサイクリング利用環境整備と情報発信が必要である
- ・沼津市民の運動不足と感じている人が多い。市民の日常の様々な場面に適した自転車利用をすることにより、健康を意識した生活スタイルとしていく必要がある

計画の目的

- ・沼津市の特性や現状・課題、市民からの意見を踏まえ、関係機関や庁内での横断的な連携・取組みを効率的・効果的に進め、自転車施策の総合的な展開を図っていくことを目的とする。

位置付け

- ・本計画を市の自転車に関する最上位計画と位置づけるとともに、自転車を公共交通と共存・共栄する移動手段として適切な連携を図る。

基本方針

「行きたいまち、住みたいまち。」 ～自転車利用環境の向上により、選ばれるまちへ～

計画の区域

- ・沼津市全域(地域の生活圏、広域観光圏を考慮)

目標1 利便性・安全性の確保

- ①自転車ネットワーク整備計画に沿った自転車通行空間整備の実施
 - ②自転車の安全利用の促進(交通安全教室、啓発、ヘルメット着用、保険加入、歩行者・自転車・ドライバとの共存等)
- ・その他施策イメージ
 - ⇒通学路安全マップの作成(茨城県 神栖市)
 - ⇒キックバイクを用いた子ども自転車教室の実施(京都府 京都市)

目標2 自動車への依存を低減

- ①サイクル&バスライドなど、自転車と公共交通の連携の強化
 - ②自転車の利便性と都市環境の向上を図るため、駐輪場の適切な管理
- ・その他施策イメージ
 - ⇒雨の日臨時便への取組(横浜市営バス、レイニーバス(遠州鉄道 浜松市))
 - ⇒週末限定 歩行者・自転車のためのオープンストリート(シクロピア・ボゴタ コロンビア)

目標3 交流人口の拡大

- ①市内や広域連携による回遊に向けた魅力的なサイクリング利用環境の創出(市内、太平洋岸自転車道)
 - ②サイクルツーリズムによる地域振興の仕組みづくりと、その情報発信
- ・その他施策イメージ
 - ⇒新技術(e-bike)を活用した体験会・イベント・ツアー(愛媛県・しまなみ海道)
 - ⇒サイクリング拠点の整備推進(ONOMICHI U2 広島県尾道市)

目標4 健康の増進

- ①市民の日常生活における自転車の利用促進(通勤、通学、買い等)
 - ②自転車を活用した健康づくりに関わる広報啓発 等
- ・その他施策イメージ
 - ⇒継続的な運動実施支援による医療費の削減(新潟県 見附市)
 - ⇒サイクルクラブの創設と健康づくりの推進(茨城県 石岡市)

